



*SAFE COMMUNITY TOWADA*



# 外傷サーベイランス懇談会

---

発表日  
発表者

令和6年8月5日（月）  
外傷サーベイランス懇談会  
副座長 新井山 洋子

# 外傷サーベイランス懇談会委員

No.	役職	所属・役職	備考
1	座長	十和田市立中央病院 院長	救急医療に関する 事務に従事する者
2	副座長	とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊 顧問	学識経験者
3	委員	青森県立保健大学 教授	学識経験者
4	委員	上十三保健所 所長	保健関係行政 機関の職員
5	委員	十和田地域広域事務組合消防本部 警防課長	消防関係行政 機関の職員

# 外傷データの収集方法①

## ■ 十和田市 S C 最初の認証時の外傷の把握方法

### ●2008年 家庭訪問による外傷世帯調査を実施

調査員総勢140人が26,299世帯から  
無作為抽出による600世帯を訪問（回収率78.4%）



### ●2009年 S C 認証取得

課題① 調査員の確保が難しいため、継続できない

課題② 専門家によるデータ分析ができていない

# 外傷データの収集方法②

## ■ 課題①：救急搬送、医療機関受診データを活用

### ● 2010年 持続性のあるデータの入手方法を検討

消防本部や市内の外科・整形外科等に協力依頼



### ● 2011年 消防本部や市内の外科・整形外科、歯科の 医療機関からデータを収集

年間約1,800人のデータを収集



### ● 2014年 消防本部及び市立中央病院のデータのみとする

医療機関の負担を考慮し、消防本部及び市立中央病院のデータのみに変更

2014年（約900人）

2023年（約800人）

# 救急搬送・中央病院データの構成

## ■ 救急搬送データ及び中央病院受診データの主な項目

No.	項目
1	発生日、年齢、性別等
2	事故種別⇒①一般負傷（転倒、転落、窒息、誤飲、やけど等） ②運動・競技 ③交通事故 ④自損 等
3	傷病名
4	傷病程度⇒①軽症（処置後に帰宅） ②中等症（入院見込み） ③重症（3週間以上の入院見込み） ④死亡
5	発生場所
6	受傷時の行動状況（仕事、家事、通勤・通学、遊び・余暇等）
7	受傷時の具体的な様子
8	その他（シートベルト・チャイルドシートの有無、飲酒の有無等）

# 外傷サーベイランス懇談会設置経緯

## ■ 課題② 外傷サーベイランス懇談会を設置

- 2013年
  - ①外傷等の調査方法及び記録
  - ②外傷等の課題の抽出及び予防対策の評価
  - ③外傷等の調査結果の活用方法

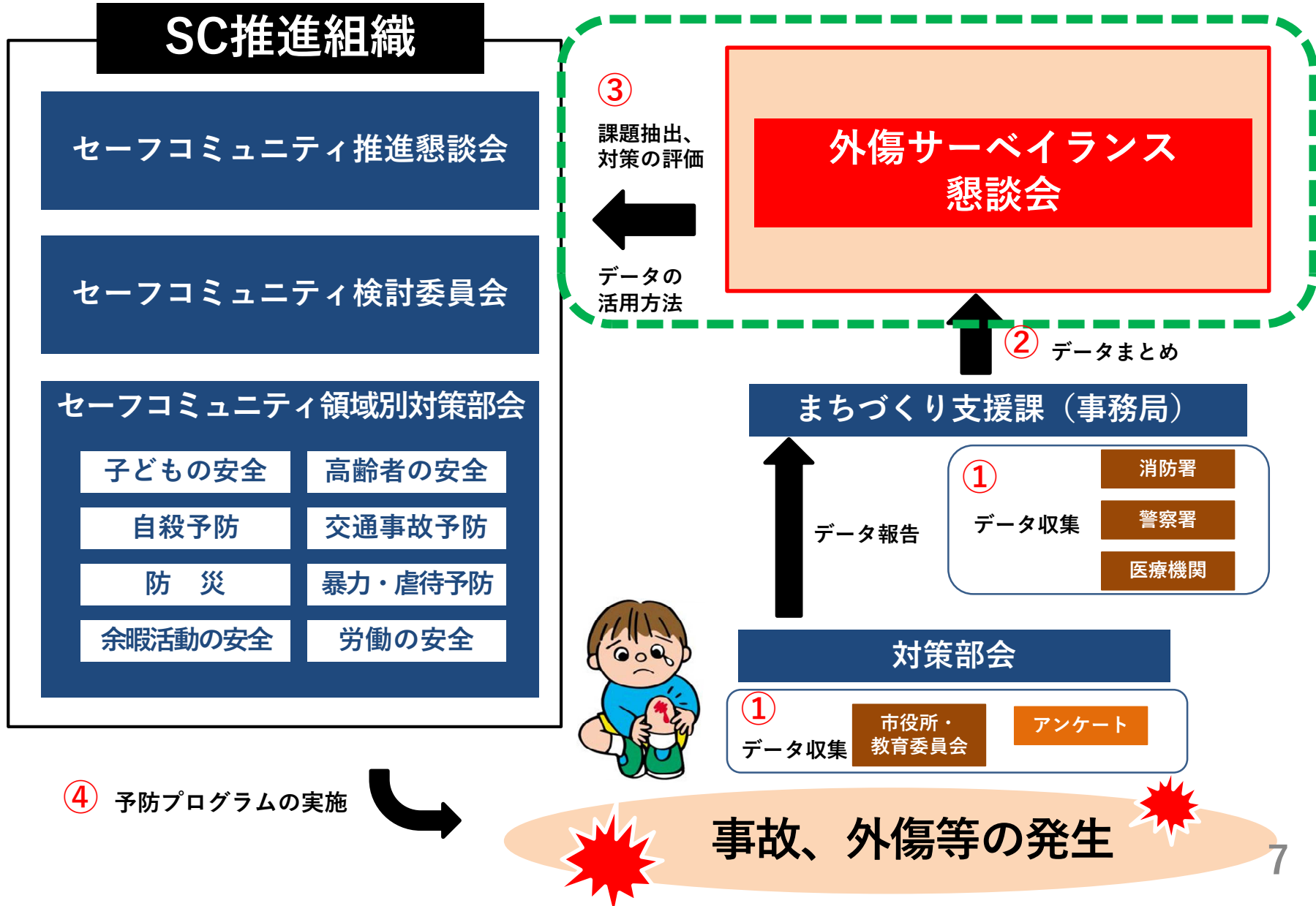
以上の事項について意見交換を行う

**“外傷サーベイランス懇談会”**

を設置

- 2019年 部会員がオブザーバーとして懇談会に参加

# 外傷サーベイランス懇談会の位置付け



# 外傷サーベイランス懇談会開催状況

## ■2019年からオブザーバーとして部会員が参加

開催日	内容	部会員の参加
2019年7月19日	十和田市における外傷の状況について	○
2020年10月9日		× (コロナ)
2021年11月9日		× (コロナ)
2022年11月4日		○
2024年1月31日		○



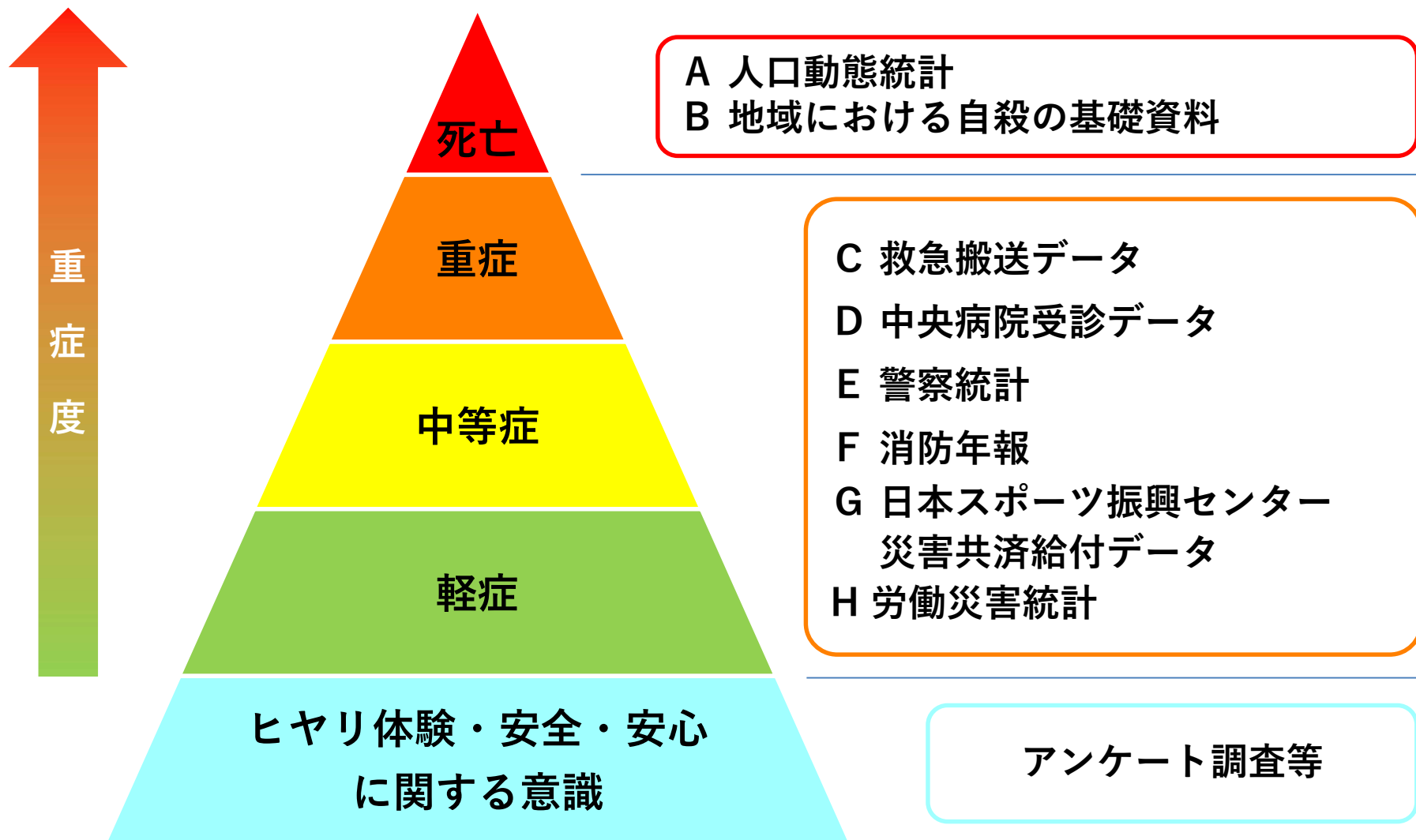
●部会員の参加より、部会の取組だけでは見えてこない現場（部会員の職場）の状況を懇談会委員に伝えることができた。

●懇談会委員から、外傷データや今後の取組に向けた意見等の情報共有が図られた。

2023年の開催の様子



# データを体系的に収集する仕組み



# データの構成

## ■ サーベイランス懇談会で確認するデータ

【統計資料等】

No.	データ名	対象	担当部会	出典先	頻度
A	人口動態統計	全住民	全対象	厚生労働省	毎年
B	地域における自殺の基礎資料	全住民	自殺	厚生労働省	毎年
C	救急搬送データ	全住民	全対象	消防本部	毎年
D	中央病院受診データ	全住民	全対象	市立中央病院	毎年
E	警察統計	全住民	交通事故予防	警察署	毎年
F	消防年報	全住民	防災	消防本部	毎年
G	日本スポーツ振興センター 災害共済給付データ	小中学生	子どもの安全	日本スポーツ 振興センター	毎年
H	労働災害統計	労働者	労働の安全	労働基準監督署	毎年

赤字：2022年追加データ

# データの構成

## ■サーベイランス懇談会で確認するデータ

【アンケート等】

No.	データ名	対象	担当部会	出典先	頻度
I	セーフコミュニティ市民アンケート調査	18歳以上	全対象	市役所	隔年
J	乳幼児を持つ保護者への意識調査	乳幼児・ 保護者	子どもの安全	市役所	隔年
K	高齢者への意識調査	高齢者	高齢者の安全	市役所	毎年
L	農作業安全確認アンケート調査	農業者	労働の安全	農協	毎年
M	企業や事業所等の安全対策に関する調査	企業・ 事業所	自殺予防 労働の安全	市役所	毎年
N	防災に関するアンケート調査	モデル地区	防災	市役所	隔年
O	暴力・虐待等に関する相談データ	児童・女性 ・高齢者 ・障がい者	暴力・ 虐待予防	市役所 ・青森県	毎年

赤字：2021年追加データ

# データの全体像

区分	子ども (0～14歳)	青年 (15歳～24歳)	成人 (25歳～64歳)	高齢者 (65歳以上)
死亡	【A】人口動態統計（死亡に関する情報） 【B】地域における自殺の基礎資料（自殺者の原因・動機等に関する情報）			
		【C】救急搬送データ（けがや事故による救急搬送の情報） 【D】中央病院受診データ（けがや事故による病院受診の情報）		
重症	【G】日本スポーツ振興センター災害共済給付データ （小中学校管理下内でのけがに関する情報）	【E】警察統計（交通事故に関する情報） 【F】消防年報（火災に関する情報）		
中等症		【H】労働災害統計 （労働災害の発生状況に関する情報）		
軽症				
ヒヤリ体験 ・ 安全・安心に関する意識		【I】セーフコミュニティ市民アンケート調査		
	【J】乳幼児を持つ保護者への意識調査			【K】高齢者への意識調査
		【L】農作業安全確認アンケート調査 【M】企業や事業所等の安全対策に関する調査		
		【N】防災に関するアンケート（モデル地区）		
その他	【O】暴力・虐待等による相談データ			

# 十和田市の外傷の状況①

前回の認証以降は、18歳未満の死亡者は発生していない

図表1 不慮の事故等による死亡者数年代別

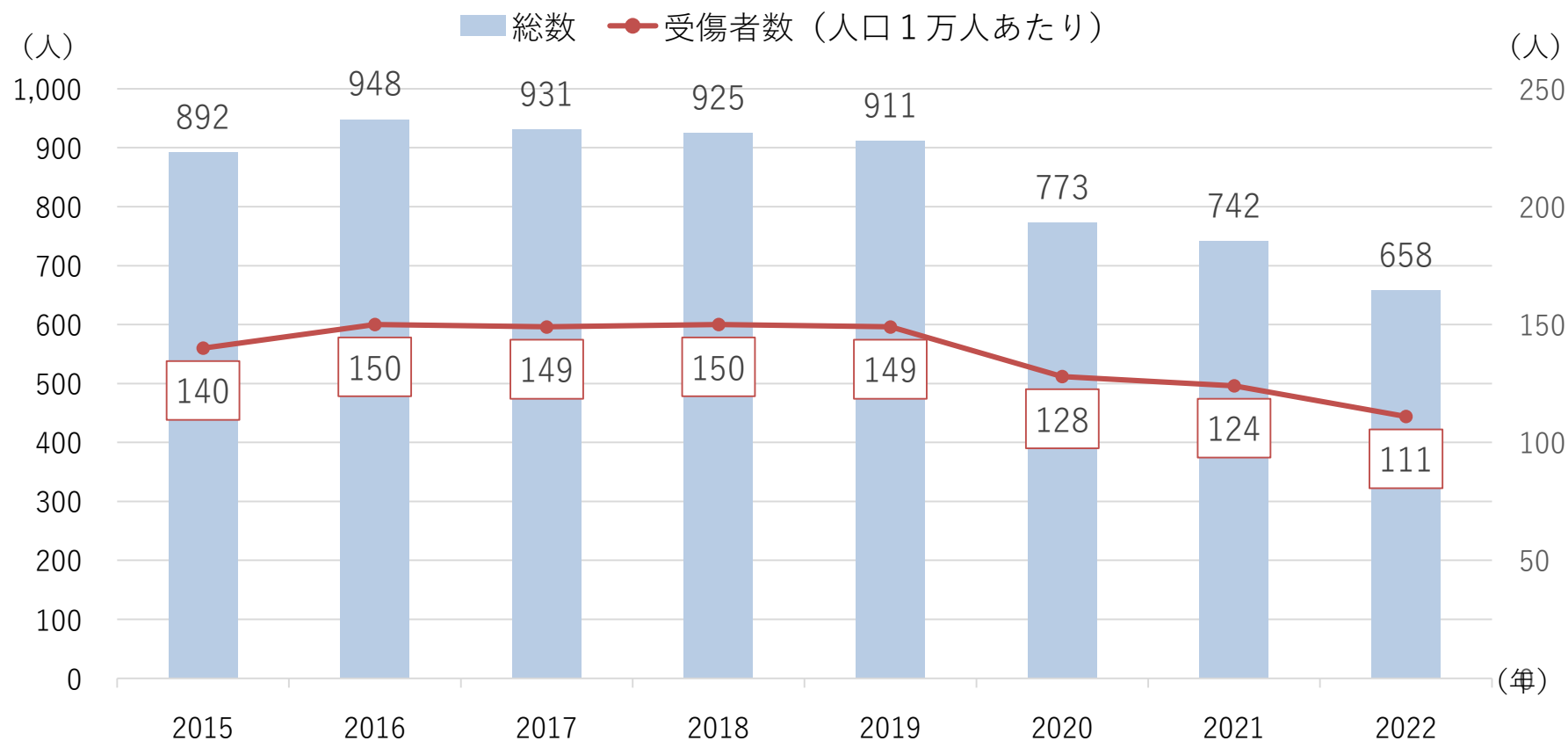
死亡原因	合計	2014～2018年		
		0～17歳	18～64歳	65歳以上
不慮の事故	157人	3人	33人	121人
窒息	53人	1人	8人	44人
交通事故	28人	1人	11人	16人
転倒・転落	20人		3人	17人
溺死	25人	1人	6人	18人
煙及び火炎への曝露	6人			6人
有害物質による中毒	4人		1人	3人
その他の不慮の事故	21人		4人	17人
自殺	80人	1人	44人	35人
他殺	1人			1人
その他の外因	22人		3人	19人
合計	260人	4人	80人	176人

合計	2019年～2022年		
	0～17歳	18～64歳	65歳以上
126人		25人	101人
29人		6人	23人
16人		5人	11人
21人		2人	19人
25人		2人	23人
8人		1人	7人
0人			
27人		9人	18人
56人		33人	23人
3人		1人	2人
25人		1人	24人
210人	0人	60人	150人

# 十和田市の外傷の状況②

新型コロナウイルス感染症発生以降は、受傷者数が減少傾向

図表2 受傷者数の年次比較（※市民のみ）



【認証③】

# 十和田市の外傷の状況③

一般負傷が6割を占め、交通事故と運動・競技の割合が減少している

図表3 事故種別ごとの割合

区分	一般負傷	交通事故	運動・競技	労働災害	自損	農作業	加害	火災	水難	その他
2015-2019年 (n=4,607)	64.1%	18.8%	6.6%	5.5%	2.8%	1.4%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%
2020-2022年 (n=2,173)	66.7%	15.3%	3.9%	6.6%	4.0%	2.0%	0.7%	0.6%	0.2%	0.0%

一般負傷…日常生活における転倒、転落、やけど、接触又は衝突、誤飲、切る・刺すなど

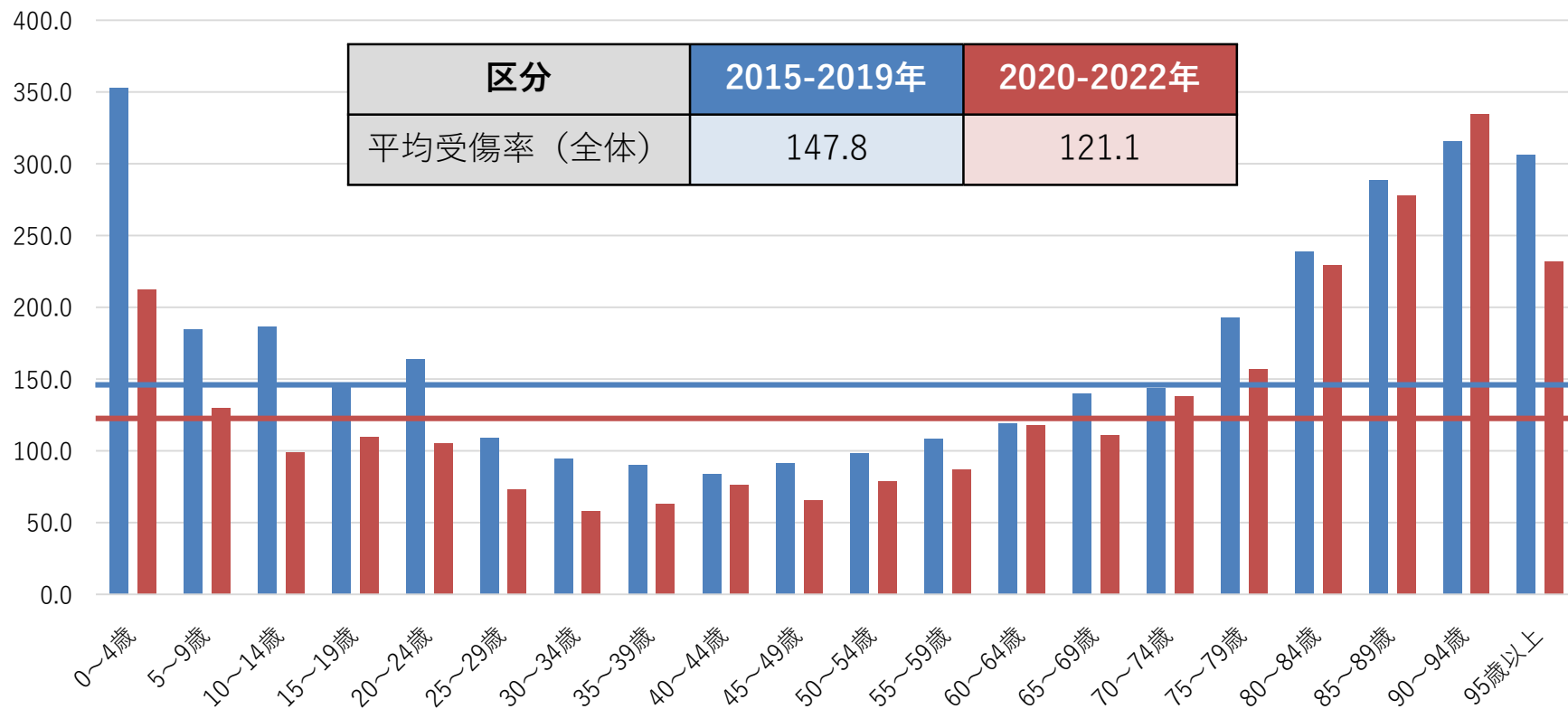
# 十和田市の外傷の状況④

0～4歳児の受傷者数が大幅に減少し、高齢者はほぼ横ばい

図表4 年代別受傷者割合

(人)

■ 2015-2019年 ■ 2020-2022年





# 十和田市の外傷の状況⑤

課題としていた「転倒」「転落」を含め、受傷数は大幅に減少

図表5 0～4歳児の自宅（屋内）での一般負傷の受傷原因

区分	転倒	転落	やけど	接触又は衝突	誤飲	切る、刺す	その他※
2015-2019年 (n=251)	51 (20.3%)	57 (22.7%)	44 (17.5%)	39 (15.5%)	18 (7.2%)	20 (8.0%)	22 (8.7%)
2020-2022年 (n=68)	14 (20.6%)	15 (22.1%)	18 (26.5%)	10 (14.7%)	2 (2.9%)	0	9 (13.2%)

※その他には、「挟む、加圧」「虫刺、咬傷」「誤嚥」「窒息」等が含まれます

出典：救急搬送及び中央病院受診データ（2015年-2019年、2020年-2022年）

# 十和田市の外傷の状況⑥

年齢が上がるにつれて、一般負傷による受傷割合が高くなる  
中等症以上の割合がどの年代でも高く、取組への助言をしていく

図表 6 高齢者の年代別一般負傷の割合と年代別傷病程度

区分		一般負傷	中等症	重症	死亡	合計
2015-2019年	65～74歳 (n=701)	65.9%	19.0%	8.3%	2.0%	29.3%
	75～84歳 (n=702)	76.8%	27.1%	8.5%	3.4%	39.0%
	85～94歳 (n=406)	88.4%	31.8%	13.5%	3.2%	48.5%
	95歳以上 (n=34)	100.0%	35.3%	14.7%	0.0%	50.0%
2020-2022年	65～74歳 (n=391)	70.6%	23.5%	7.4%	3.3%	34.2%
	75～84歳 (n=367)	77.4%	30.2%	12.3%	3.5%	46.0%
	85～94歳 (n=288)	89.9%	39.6%	10.1%	3.8%	53.5%
	95歳以上 (n=20)	100.0%	25.0%	10.0%	0.0%	35.0%

# 市民アンケート

## ■ 市民アンケートの調査方法の変更



市民無作為抽出アンケートの概要					
実施時期（年度）		2020年	2021年	2023年	
アンケート方法	調査	郵送	郵送	郵送	
	回答	郵送	郵送	郵送又はインターネット	
対象範囲		18歳以上 男女2,000人			
調査項目		全31問	全28問	全38問	
回答率		43.4% (850人)	41.8% (837人)	38.3% (766人)	

# 調査方法変更による指標への影響①

啓発の効果を見直すことができ、新たな活動の検討・実施に繋がった

図表7 暴力・虐待予防対策部会の短期指標

変更

調査年	2015年 (n=388)	2017年 (n=310)	2019年 (n=212)	2021年 (n=837)	2023年 (n=766)
①虐待の通報は、虐待の疑いがあると思う場合でも受け付けられることを知っている割合	59.0%	66.5%	71.7%	58.5%	67.1%
②虐待の通報は、通報者が特定されないように配慮されていることを知っている人の割合	42.0%	49.7%	50.5%	35.5%	42.8%

# 調査方法変更による指標への影響②

指標値の精度が高いものとなり、活動の成果の評価がしやすくなった

図表8 防災対策部会の中期指標

変更

調査年	2015年 (n=388)	2017年 (n=310)	2019年 (n=212)	2020年 (n=850)	2021年 (n=837)	2023年 (n=766)
住宅用火災警報器の設置	50.0%	52.0%	59.3%	61.3%	63.4%	78.6%
消火器・バケツの用意	35.1%	50.8%	46.8%	36.0%	31.1%	38.3%
家具などの固定・補強	36.6%	46.3%	35.8%	29.4%	25.8%	25.7%
食料の備蓄(3日分程度)	33.2%	46.0%	41.6%	43.1%	42.5%	41.1%
避難経路・避難場所の確認	26.0%	43.2%	36.7%	31.5%	28.6%	33.9%
建物の耐震診断、建物や塀の補強	9.5%	37.6%	10.7%	7.4%	7.3%	5.5%
市の安全・安心メールへの登録	13.1%	41.5%	21.4%	9.9%	15.2%	12.8%

# 外傷サーベイランス懇談会委員の意見反映①

## ■懇談会委員の意見を部会等の活動へフィードバック

委員) アンケート調査を見ると、反射材を持っていない人が3分の2。  
お年寄りだけではなく、家族に配布してはどうか。

交通事故予防対策部会で検討

**対象を高齢者以外にも拡大**

従来の高齢者世帯訪問時のほか、  
イベント時や狂犬病予防接種の注射時など、  
様々な機会に反射材を配布。

※詳細は交通事故予防対策部会で説明



# 外傷サーベイランス懇談会委員の意見反映②

委員) 防災対策部会「住宅用火災警報器の推進プログラム」の内容について、設置率の調査が無作為で年によってばらつきが出てしまうので、モデル地区を設定して継続的に調査し、啓発してみてはどうか。



## 防災対策部会で検討

### 1つの小学校区をモデル地区に設定

市人口の約5%程度を占める1つの小学校区をモデル地区として設定し、もう一つのプログラムである「災害時の意識づくりプログラム」と一緒に、普及啓発を実施※詳細は防災対策部会で説明



# 外傷サーベイランス懇談会委員の意見反映③

委員) サーベイランス懇談会で使用しているデータを、事務局でも活用し、いろいろな関係機関に配布したり、市民への啓発に使用してほしい。



## 事務局で検討

### 出前講座に外傷データを活用

市職員が講師となり、高校生や高齢者に市の外傷データを説明し、事故やケガの予防を呼びかけています。





# その他のデータの活用例

- ・ 十和田市安全・安心情報「駒らん情報メール」や市広報による注意喚起
- ・ 市役所本館内でのPRコーナーの設営（左下）
- ・ セーフコミュニティ活動に取り組む高校生への提供（右下）



# 課題

- ・ **外傷サーベイランス懇談会の開催方法**

各種外傷データ等の公表時期もあり、秋以降に開催しているが、部会の取組はすでに決まっており、データ分析からの助言後すぐに、部会の活動に活かすことができない。

全8部会の意見交換をすると会議の時間がかかってしまう。

- ・ **医療費・財政面における効果の検証**

外傷データの分析や部会の活動への評価はできているが、医療費や財政面におけるセーフコミュニティ活動の効果検証ができていない。

# 今後の方向性

- ・ 持続可能な体制を築き、専門的な立場からの助言により、更なるセーフコミュニティの推進を図り、安全・安心なまちづくりに取り組む。
  - ・ データ分析による活動の評価や助言
  - ・ 重点課題の見直し
  - ・ 懇談会以外で対策部会へ助言ができる体制の整備
  - ・ 事務局が実施しているデータ分析の省力化・迅速化を図る
  - ・ 医療費や財政面の経済効果の見える化に取り組む



# ご清聴ありがとうございました

今日も無事でいてほしい



十和田市セーフコミュニティ推進マーク

- 「十」 十和田市の安全な街並み、
- 「和」 美しい郷土・十和田湖と紅葉、
- 「田」 人々の協働・交流・絆